

約の中へ付さるる自恣と一片の儉
約とすすらくて尋常とすすす

別冊君長言行録
明君白川夜詠

本多

出雲守藤原政利まさとし八門記政勝まさかつの四
男ありしとての彈正右衛門と稱す
明暦元年十二月従ふ位下と叙し
出雲守に任す寛文十一年父政勝
卒せし後遺領の月六万石と分
給しとて政利の賜ふ悉寶七年
六月播磨國明石城に移さるる

万石を加へ賜ふ天和二年二月故
りりり領地を公収せしむ新よ
陸奥國岩瀨みく一萬石を賜ふ
元禄六年六月罪蒙りしむ出羽
國庄内郡小配流せしむ同十五年
七月再び之河國忌濟み配流せしむ
寶永永仁年十二月八日配下しとい
くし六十七年ありしむ卒候

一本多し出雲守政利の播州明石の城ま
しつと大分氏名をく大分良せしむ人
み親え臨ししむ生息ありし猪は
まけぬ坊ししむ毛よぬ物有のあり
を好みしむ銅造りしむに牙を所持し
て先を丸め庭くしむ一並るあり
しむ近習者のしむは猪の子をいらしむ
しむに猪の子をいらしむ一成長し

けらう怒りて野田浦庵とらふ醫師を
かけ倒しけりて牙丸けまてらる
疵を食ふとらふとらふかゝるか
とらふぬ出すらぬとらふて近ある者
とも大勢池よりとらふと殺千人とけ倒
し政利ともけんとい飛うとらう
股へ首を入りしと政利笑つて猪
れ政と股へ引くうんて志あけるにらふ

猪とらふとさ漢すひとらふとら
らとふ猪の目とらふと血あかして尻付
ふとらふとけりて出雲と別力なるとらふ
とらふ尺にぬすたり扶妻竹とらふとら
掴むひとらふとらふとらふとら
とらふと 校舎雜記

一 天和二年二月廿二日政利領地の政
よりかゝるに城地ともて没収せ

らと陸奥國岩波の地よりなりしは
所領を編ふに万々されと改むるは
もなきに程も非法の振とありしは
元禄六年六月十二日罪と義ありし
息男門正に真とも配流せしむる
政利ハお母の國へ流されて沼井左衛尉忠と預
けりし子門正に云ふは作豫の國に流されしは一抔に都
少捕事流へ給けりしは政利の事なりしは
申へりしは女をさうて於てしは
あつてしは女をさうて於てしは
あつてしは女をさうて於てしは

後も政利の事なりしは
流ししは家人等も非道は事
とも多しなりしは
よと下ありしは水野監物忠之の預け
らと堅固の押込なりしは
附流し家人等も事訴くは科ふ
よりて遠流の事なりしは

續藩幹譜



藩鑑卷之百二十三目錄

ほ部三十八

本多仇渡守藤原正信